



三浦 一喜 撮影

笑顔でずっと **大** 好きなふるさと **泉**  
楽しさあふれる

## 大泉地域ビジョン

令和6年3月

大泉地域ビジョン策定委員会

# 目次

はじめに	1
1. 地域ビジョンのテーマ	2
2. 大泉地区の将来像	2
3. 計画の期間	2
4. 現状と課題	2
5. 大泉地区の人口と世帯数	3
6. 地域の資源	4
7. 取り組みの方向性	6
8. 事業計画	8
9. 地区を取り巻く協働先	9
10. 鳥瞰図	10
11. 検討の経過	12
検討委員会委員名簿	

# はじめに



## 大泉地域ビジョン策定委員会 委員長 伊藤哲哉

ここ大泉地区は朝日連峰の山々に囲まれ、冬ともなれば積雪が2mを超える典型的な豪雪地帯であります。かつては大泉鉱山や荒沢ダム建設などで大いに賑わった時期もありましたが、その頃の人口をピークに年々減少が進み、平成25年3月に大泉保育園が閉園、平成26年3月には朝日大泉小学校が閉校になるなど、少子化の波が強く押し寄せています。公共交通においても、庄内交通のバスが朝1本、夕方2本に大幅に減便になるなど、住民の足に大きな影響が出ています。人口の減少が地域の活力を奪い、持続可能な生活が送れるのか、地域住民の中には不安を口にする人も増えてきています。

このような状況を打開するために、大泉地域の目指すべき将来像について、皆で知恵を出し語り合うことが必要と考え、平成30年度に地域ビジョン策定モデル地区に応募し採択されました。各集落からメンバーを人選、15名の委員で令和5年2月から計6回の策定委員会を開催してきました。ただ委員から出される課題や意見は、公共交通や雪対策など他の地域で課題とされた部分と重なるものが多く、地域特性を生かした方向性を見つけることは容易ではありませんでした。また上流域には大鳥集落が存在し、豊かな自然を生かした地域づくりが進められており、県外からの移住者も多いなど注目度が高く、ややもすると大泉地区は大鳥地区への通過点とみなされてしまう部分もあります。

“それでも”大泉地区に足を運んでもらう（交流人口の拡大）ための手立ては何か、安心して住める地域づくり（持続可能な生活）とは何かとの視点で、地域の現状を明らかにしながら、課題や解決方法について話し合いを進めてきました。結果として、下田沢カタクリ園や大平ワラビ園など大泉地域特有の観光資源を生かした交流人口の拡大、宅内の除排雪や買い物支援など定住化のための取り組み等々、具体的な事業計画を策定することができ、これで十分とはいえませんが、一定の方向性を示すことができました。

今後は、地域の皆さんからのご協力やご意見もいただきながら「笑顔でずっと住み続けられる大泉」をめざし、各種事業に取り組んでいきたいと思っております。改めまして、皆様のご理解とご協力何卒よろしくお願い申し上げます。

## 1. 集落ビジョンのテーマ

笑顔でずっと **大** 好きなふるさと  
楽しさあふれる **泉**

## 2. 大泉地区の将来像

私たち大泉地区の住民みんなが、心安らかに暮らすことができる地域をめざして、お互いに助け合って生活を支える仕組みづくりを進めます。

地域の資源を最大限に活用するために知恵を出し合い、地域の人材が持てる力を発揮して、生き生きと輝いて活躍できる場づくりを進めます。

## 3. 計画の期間

令和6年度～令和10年度

## 4. 現状と課題

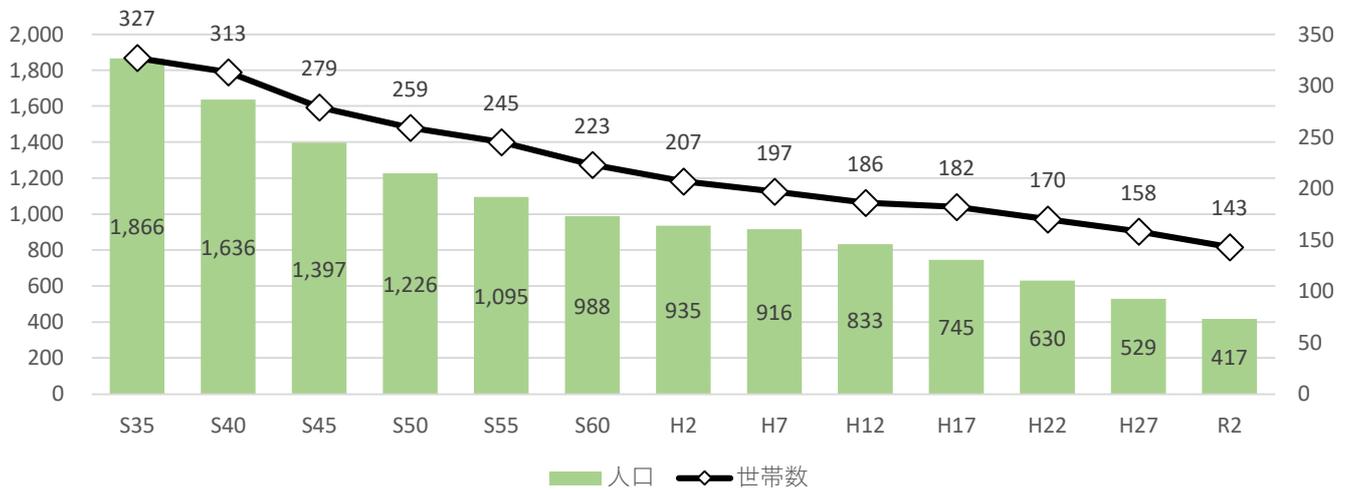
朝日地域の南部に位置する大泉地区は、朝日連峰の懷に抱かれ、わずかな平地に点在する七つの集落からなり、かつては旧大泉村の中心地として、大泉鉱山や荒沢ダム建設などの産業で栄えましたが、それらの衰退とともに人口減少が進んできました。

さらに、社会基盤の整備が進み生活圏が広域化するにつれ、市街地から遠く豪雪地であることなどの悪条件が過疎化に拍車をかけ、保育園や小学校の統廃合、商店の減少、バス路線の縮減など、生活サービスの低下も相まって、後継者不足に悩まされています。

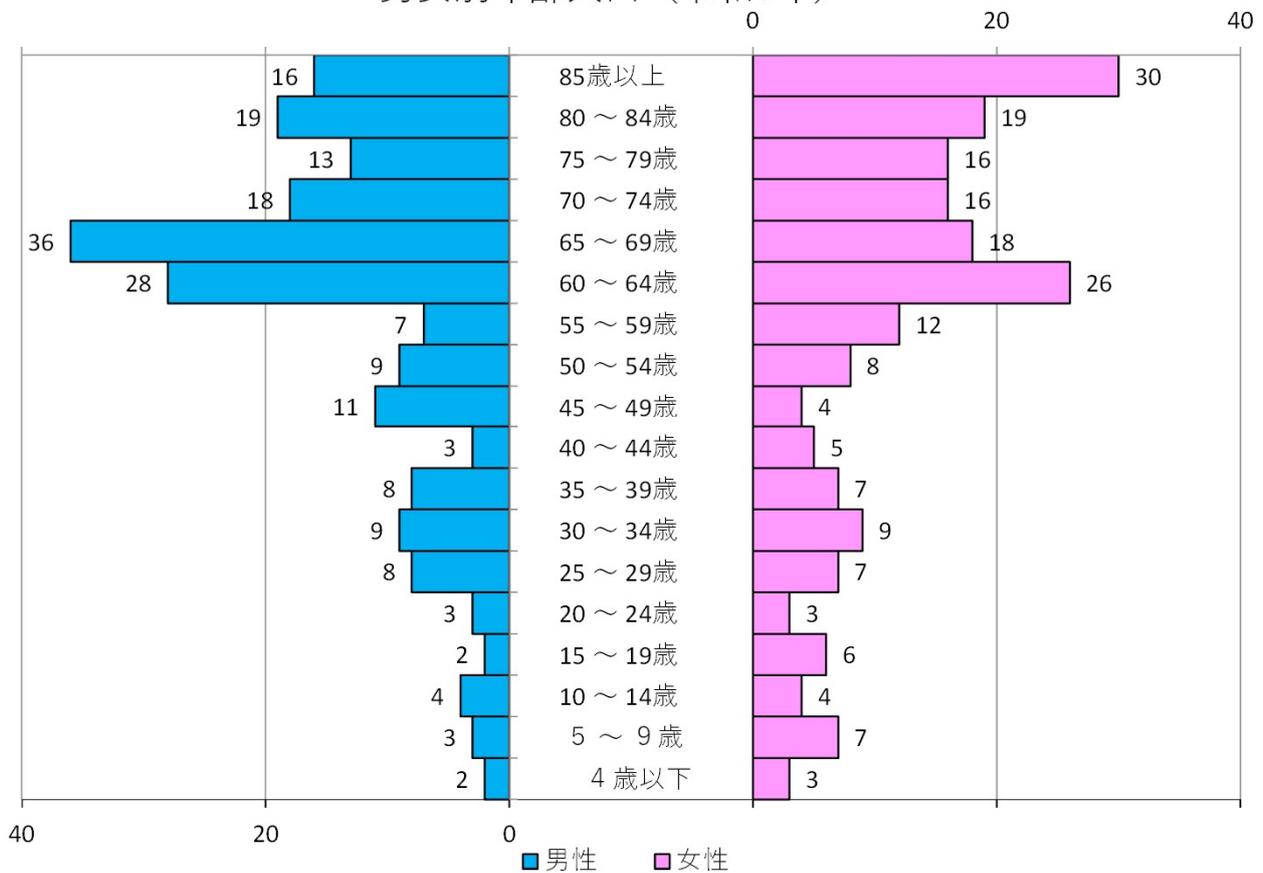
人口減少と少子・高齢化により活力が低下し、雪処理の負担の増大などで地域活動の担い手不足が深刻となり、克雪対策、生活サービス支援など、地区民が安心・安全に暮らすことができる生活環境の構築が急務となっているとともに、地域資源の活用や地区民の生きがいをづくりなど、地域の活力につながる取り組みも求められています。

## 5. 大泉地区の人口と世帯数の推移

大泉地区の人口と世帯数の推移（住民基本台帳）



男女別年齢人口（令和3年）



## 6. 大泉地区の資源

### 豊かな自然と森の恵み

大泉地区は、四方を山に囲まれた立地により、豊かな自然と、山菜やキノコなどの林産物に恵まれた土地柄です。

霊峰摩耶山やカタクリ園、わらび園などに多くの来場者がありますが、シーズンが短いので、オフシーズンの魅力の創出が課題となっています。



#### 摩耶山（県指定名勝・日本三百名山・やまがた百名山）

標高1,019mながら、倉沢登山口からのルートは急峻で岩場が多く上級者向けの山として知られています。

山頂からは朝日連峰や日本海の絶景が望める登山者に人気の山であり、地域住民の心の拠りどころでもあります。

倉沢自治会で摩耶山観光協会を組織し、登山道の維持・管理を行っています。

#### 下田沢カタクリ園

下田沢集落の西側、赤川を吊り橋で渡った先に、およそ2haものカタクリの群生が広がっており、その規模は東北でも最大級と言われています。

その可憐な姿は「春のはかない命」と呼ばれており、ゴールデンウィーク前後にかけて一斉に花を広げる様は見事な光景です。

下田沢自治会で管理を行い、大切に守り続けています。



#### 大平わらび園

大平集落から、さらに坂を上ったその先に、摩耶山を正面に仰ぎ見る雄大な景色の観光わらび園があります。

約3haの園地では、1シーズンに約1,300kgのわらびが収穫され、収穫期になると近隣から収穫シーズンには常連を始めとし、約300人が訪れ、こぞってわらび採りを楽しんでいます。

大平集落の3戸の農家が市から施設を借り受けて運営しています。

#### 朝日軍道

鱒淵を起点とし猿倉山から朝日連峰の尾根伝いに長井市草岡に至る60kmに及ぶ9尺幅の道路がありましたが、これは戦国時代末期に米沢と庄内を支配していた上杉家の武将、直江兼続が、他国の領土を通らざりに行き来できるように整備した軍事道路と伝えられています。

「幻の軍道」と呼ばれ、鱒淵から猿倉山に至る経路はわずかな痕跡を残すのみですが、復元をめざす取り組みが始まろうとしています。





### 池の平公園

池の平は、荒沢集落の南東の山間にあるため池で、灌漑に利用されているほか、かつては広場やキャンプ場が整備され、管理棟も建てられました。現在は訪れる人もいません。

池の周りを周遊できる散策道や、ボートによる遊覧や釣りなどを楽しむこともできましたが、現在は外来種のブラックバスに駆逐され、従来の生態系も崩れている状況にあります。

### 特用林産物・森林資源

豊富な種類の山菜やキノコが自生しているほか、栽培に取り組んでいる農家もありますが、多くの資源が有効に活用されることのないままになっていますので、それを活かすことができれば地場産業や高齢者の生きがいの創出など、大きな可能性を秘めているとも言えます。

また、伐期を迎えた杉材や、ブナ、ナラなどの天然林も豊富ですが、十分に利活用されているとはいえないのが現状です。



## 人のつながりで伝統を紡ぐ

大泉地区は、地域住民のつながりが強く、世代間の交流も活発であり、人と人とのつながり自体が大きな資源と言えるでしょう。

結の精神を生かした数々の取り組みや、助け合いの心が育む伝統行事を次代につなぐところこそが、地域の活力を生み出す源泉となります。



### 伝統食をつなぐ会、介護予防・健康づくり事業

地区の高齢者から中年若年層へと、地域の食文化を絶やさないようにとの願いが込められた取り組みである「伝統食をつなぐ会」など、地域住民が地域に愛着を持ち、いきいきと暮らすことができるような行事を、コミセンが中心になり展開しています。

地域の高齢化が加速する中、健康で生きがいを持って暮らすことができる地域づくりが、ますます重要になっています。

### 各集落の祭礼行事、民俗芸能

各集落では、古くから伝わる宗教行事が伝承されていますが、担い手不足で継承することが難しくなっている現状にあります。

寺社の管理や集落ごとに受け継がれてきた祭礼行事も、地域全体で守っていくような考え方に移行していくなど、大切な財産をしっかりと守っていくための方策を、地域全体として考える時期に差し掛かっていることを共通認識としていかなければなりません。



### 地域の人材、除雪ボランティア、世代間交流（駅伝等）

大泉地区には、さまざまな技能を持つ方がおり、住む人そのものが地域の資源と言えます。

また、除排雪などにおける結の精神、駅伝大会の取り組みに見られるような、大人が青少年を育てるような場面が随所にみられます。

このように助け合って生きることこそが、地域を守り育てることにつながっています。

笑顔ですっと 住み続けることができるような

**大**好きなふるさと 楽しさあふれる **泉**

であり続ける地域づくりをめざします



### 暮らしを守る 助け合いの仕組みづくり

地域の高齢化が進み、近い将来、宅内の除排雪や買い回りなどが困難になる住民が増えてくることが想定されることから、日常生活の不安を解消するために、生活支援に係る需要の把握、仕組みのあり方などについて研究し、住民同士の助け合いによって支援する仕組みを構築します。

また、公共交通を利用しやすいものにするために、住民のニーズを聴き取りし、定時定路線方式やデマンド方式など、どのような運行形態が地域に合っているのかを検証し、関係機関に対して制度の改善を提案していきます。



### 農業経営や森林資源の活用に 地域ぐるみで取り組む仕組みづくり

後継者がいないために耕作できない農地を有効利用し、住民の所得の増加や環境の保全、景観の保持などを図るため、非農家を含む人材の掘り起こしによって労働力を確保し、地域の営農を活性化することができる経営体の構築をめざします。

また、水稻以外の作物の栽培にも力を入れて、地域の特産開発に取り組みます。

さらには、個人所有の山林に自生する特用林産物の有効活用を図るため、自治振興会で所有者と業者のマッチング等を行う体制を整えるなど、地域で包括的に収穫・販売を管理する仕組みの構築をめざします。

# 3

## 観光資源の掘り起こしで 来訪者を呼び込む魅力づくり

大泉地区にはカタクリ園やわらび園などの観光資源がありますが、いずれもシーズンが短く、オフシーズンの有効な利活用ができていないため、本来の利用目的にとらわれず多角的な視点で活用策を検討し、来訪者を増やすことができるような取り組みを進めます。

また、荒沢ダムや池の平公園など、かつて観光目的の利用があった施設や、観光資源になり得る潜在的な素材について、水上レクリエーションや、ブームになっているグランピング、テントサウナ、ソロキャンプなどに着目した再生の方策を研究します。

# 4

## コミュニティ機能の再構築と 地域の絆づくり

人口減少、高齢化により自治会の運営では役員の負担が過重になり、共同財産の維持・管理にも支障を来す状況にあり、集落機能を維持していくための対応策が喫緊の課題になっています。

集落再編などもタブー視せずに議論していくことが求められていますが、手始めに自治会単位で行っている夏祭りなどの行事を地区全体で実施したり、各集落単位で機能せずに休止状態になっている子ども会育成会を統合して地区全体で活動するなど、可能な分野から徐々に取り組みを進めていきます。

また、参加者が少なくなっている運動会などの行事に、地区外に居住している出身者が参加できるような工夫を凝らしたり、地区外の方も参加したくなるような行事を新たに創出し、賑わいをつくりだしていきます。

伝統食をつなぐ会などの世代間交流事業の拡大により地区内の交流を活発にし、さらには、地域でいきいきと暮らすことができるようにするために、生きがいつくりにつながる事業に取り組みます。

# 5

## 計画を着実に推進するための 体制づくり

ビジョンを着実に推進するためには、事業を企画・立案し、実行に移していくためにどのような体制にするかが重要になってきます。

そのための組織のあり方として、策定委員会を推進委員会に衣替えして各機関との連携のもとに進める方法と、自治振興会等の既存組織の中にビジョン推進のための機関を設ける方法の二通りが考えられますが、大泉地区の場合、南部地区自治振興会と圏域が同じではないこと、自治振興会は専門部を持たず、執行機関に付属する実行委員会組織が実際の事業の企画・運営を担い、実質的には事務局に業務が集約される体制になっていることで、配下に組織を置くことはなじみにくいため、独立した組織として策定委員会を中心とした推進委員会を立ち上げることとします。

ただし、この方式に関しては、権限を持たない組織であること、新陳代謝がむずかしく硬直化する恐れがあること等、不安要素を多く抱えた船出になることも予想されますが、自治振興会を中心に、地区民全体にビジョンの推進に対する理解を求めるところから地道に取り組んでいくことが求められます。

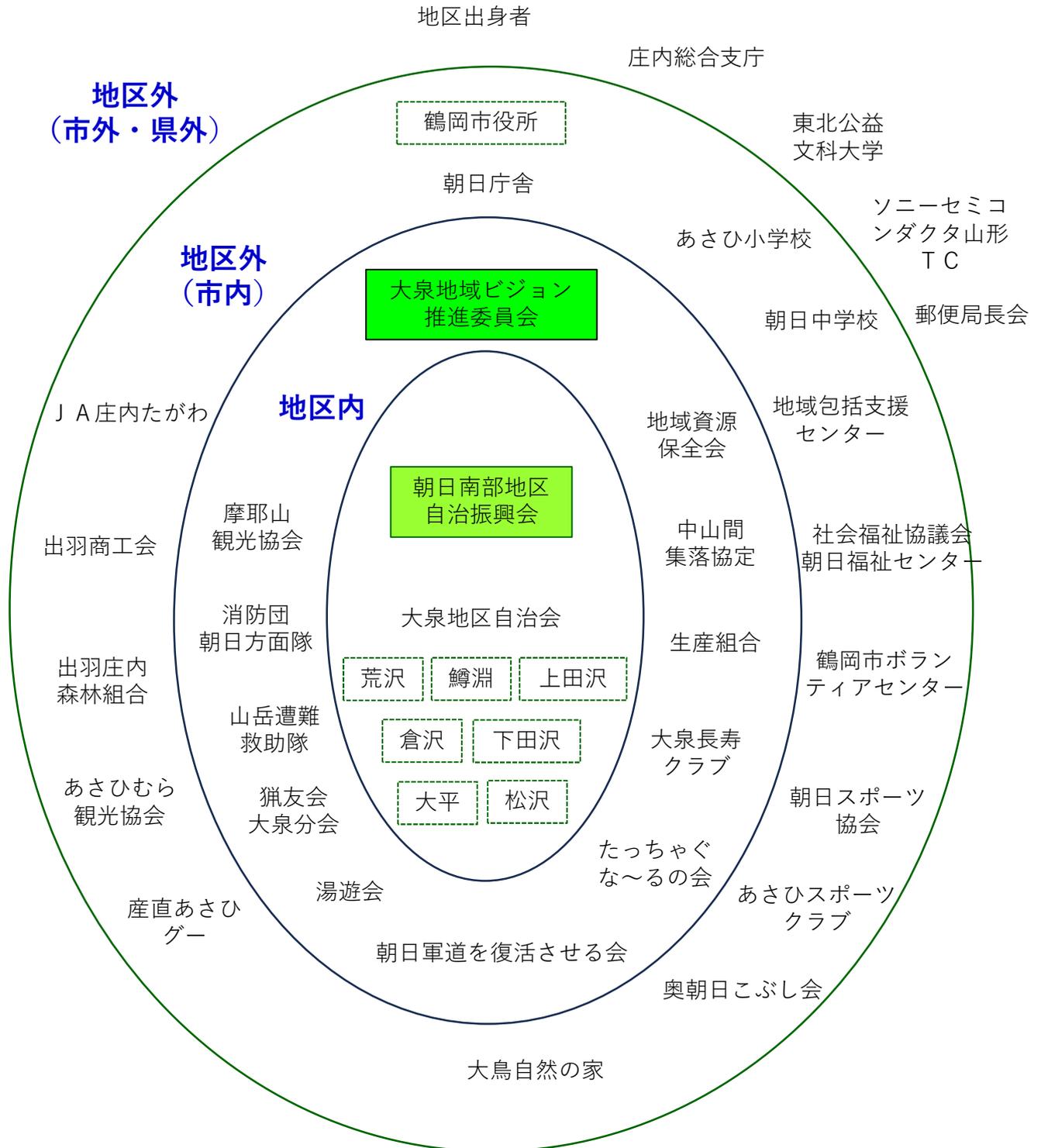
## 8. 事業計画

項目別の活動内容	主な連携先	着手年度					重点事業	即時事業
		R6	R7	R8	R9	R10~		
<b>1. 暮らしを守る助け合いの仕組みづくり</b>								
買物・通院支援の移送互助サービスシステムの構築	自治振興会	○	○	○	○	○	○	○
市営バスの使いやすさ向上に資する提案	朝日庁舎	○	○					
宅内除雪の相互扶助の仕組みの構築	自治振興会	○	○	○	○	○	○	○
除雪ボランティア協力企業・学生の拡大	自治振興会	○	○					
遠隔見守りシステムの調査・研究に協力	朝日庁舎					○		
<b>2. 農業経営や森林資源の活用に地域ぐるみで取り組む仕組みづくり</b>								
非農家を取り込んだ農業経営体の構築	営農組織		○	○				
地域ぐるみの山菜等収穫・販売の仕組みづくり	自治振興会		○	○	○		○	
水稲以外の基幹作物の研究・開発	営農組織					○		
ドローンを使った鳥獣被害対策	営農組織					○		
林業後継者の育成のための研修を企画	森林組合		○	○				
<b>3. 観光資源の掘り起こしで立ち寄りたくなる地域づくり</b>								
カタクリ園、わらび園の閑散期の活用策の開発	観光協会		○	○			○	
地区の「顔」となる名物の開発	産直等		○	○	○	○	○	
各地区の清水の再興とPR（マップづくり等）	自治振興会	○	○					
池の平公園、荒沢ダムの観光メニューの研究	観光協会			○	○			
摩耶山登山道管理のあり方の調査・研究	観光協会				○	○		
朝日軍道の復元に向けた取り組みの実施	朝日庁舎	○	○					
大泉の魅力・写真コンクールの実施	自治振興会			○	○			
<b>4. コミュニティ機能の再構築と地域の絆づくり</b>								
自治会組織、共有財産の統廃合等の可能性の研究	各自治会		○	○	○			
集落毎のイベント（夏祭り等）の地区全体での開催	自治振興会	○	○	○	○	○		○
出身者が参加したくなる魅力的なイベントの創出	自治振興会				○			
子ども会育成会の統合による活動の活性化	自治振興会	○	○					○
世代間交流事業・生きがいがづくりの拡充	自治振興会	○	○	○	○	○	○	
旧校舎体育館のコミセン編入による機能向上	自治振興会				○			
移住の環境整備のため大鳥の移住者との意見交換	自治振興会	○						
<b>5. 計画を着実に推進するための体制づくり</b>								
地区のPR・情報発信の体制整備	自治振興会			○	○			
ビジョン推進委員会の立ち上げ	自治振興会	○						○
各自治会への説明会の実施	自治振興会	○						○

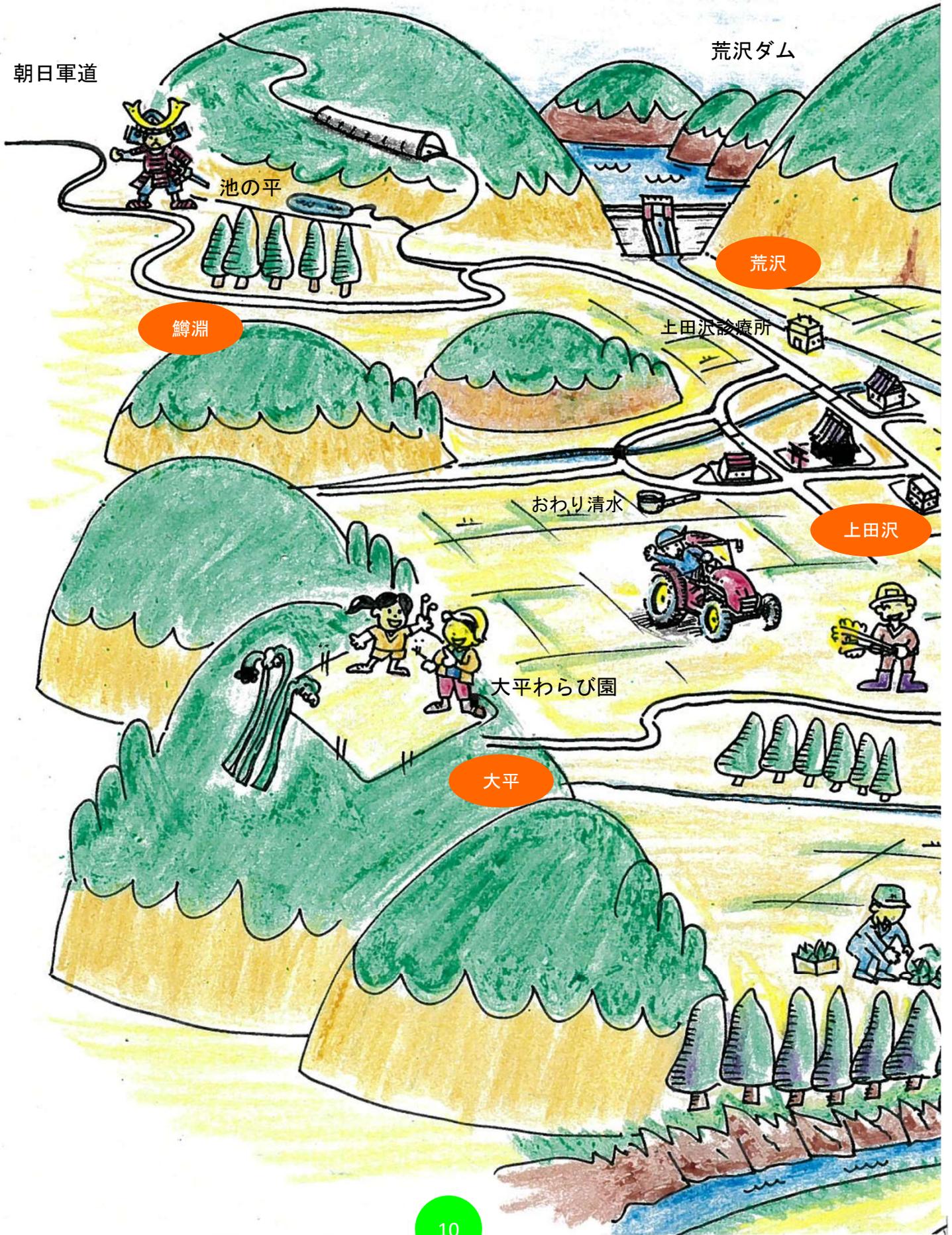
\*重点事業＝特に力を置いて取り組む事業

\*即時事業＝すぐに着手する事業

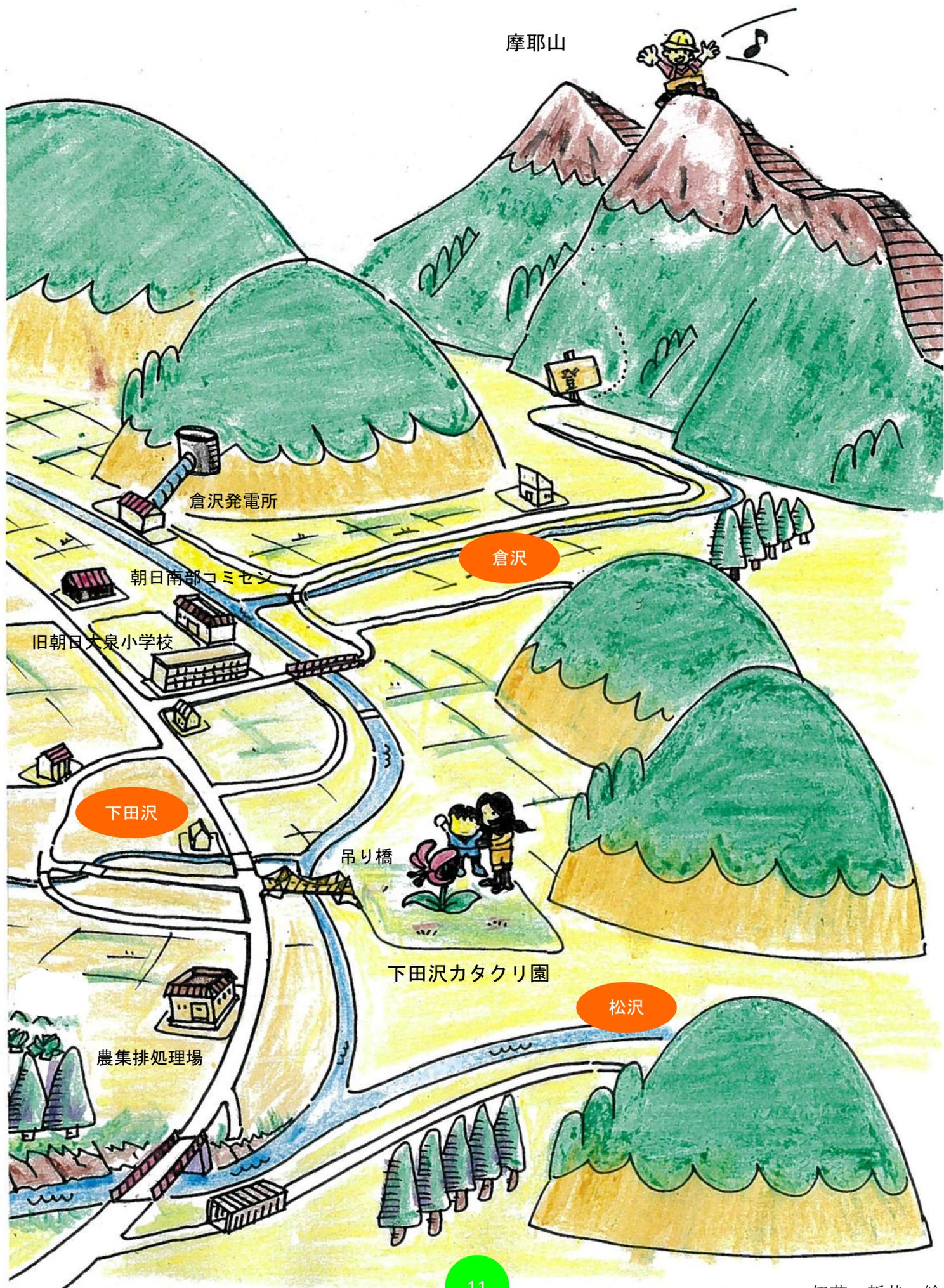
## 9. 地域を取り巻く協働先



10. 鳥瞰図



摩耶山



倉沢発電所

朝日南部コミセン

旧朝日大泉小学校

下田沢

吊り橋

下田沢カタクリ園

農集排処理場

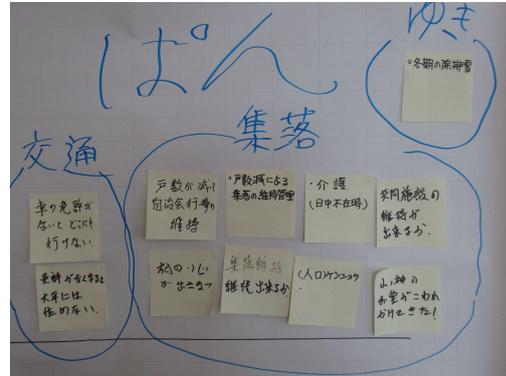
松沢

## 11. 検討の経過

- ◇下田沢自治会ワークショップ（平成30年2月23日）  
《目的》下田沢集落・大泉地区の現状を把握し、10年後について語り合う  
《内容》ワークショップ（強み、弱み、資源、不安の四つの視点で地域課題の洗い出し）
  
- ◇奥田政行シェフ講演会（平成30年3月28日）  
《目的》南部地区を担う次世代が未来を描く  
《内容》「食」がつなぐ人の輪・和・話・・・『食』から地域最盛へ
  
- ◇南部自治会連絡協議会理事会（平成30年9月20日）  
《目的》人口シミュレーションモデル地区への応募について協議  
《内容》応募を機関決定
  
- ◇人口シミュレーション報告講演会（平成31年3月10日）  
《目的》シミュレーション結果の報告  
《内容》取り組みの成果確認
  
- ◇南部自治会連絡協議会理事会（令和3年12月17日）  
《目的》大泉地域ビジョンの取り組みについて協議  
《内容》地域ビジョン策定に取り組むことを機関決定
  
- ◇上田沢自治会ワークショップ（令和4年10月8日）  
《目的》上田沢集落・大泉地区の現状を把握し、10年後について語り合う  
《内容》ワークショップ（強み、弱み、資源、不安の四つの視点で地域課題の洗い出し）



- ◇大平自治会ワークショップ（令和4年11月19日）
  - 《目的》大平集落・大泉地区の現状を把握し、10年後について語り合う
  - 《内容》ワークショップ（強み、弱み、資源、不安の四つの視点で地域課題の洗い出し）



- ◇第1回大泉地域ビジョン策定委員会（令和5年2月24日）
  - 《目的》ビジョン策定の目的意識の共有
  - 《内容》経過の説明と策定スケジュールの提案
- ◇第2回大泉地域ビジョン策定委員会（令和5年3月24日）
  - 《目的》大泉地区の課題について整理
  - 《内容》ポストイットトークによる課題の洗い出し、共有のための討議
- ◇南部地区自治振興会評議員会（令和5年4月14日）
  - 《目的》ビジョン策定の取り組みに係る中間報告
  - 《内容》経過の説明と策定委員会の討議内容の報告、策定スケジュールの提案
- ◇第3回大泉地域ビジョン策定委員会（令和5年4月27日）
  - 《目的》課題の解決策の洗い出し
  - 《内容》解決策の提案と討議による取り組み案の具体化
- ◇第4回大泉地域ビジョン策定委員会（令和5年7月14日）
  - 《目的》解決策の分類・整理
  - 《内容》課題の解決策の分野別の整理、具体的な取り組みの立案
- ◇第5回大泉地域ビジョン策定委員会（令和5年9月1日）
  - 《目的》テーマ・方向性・事業計画の立案
  - 《内容》ビジョン内容全般の検討
- ◇第6回大泉地域ビジョン策定委員会（令和5年9月29日）
  - 《目的》テーマ・事業計画の取り組み年次の検討
  - 《内容》テーマの決定、事業計画の年次・重点項目・すぐに取り組む事業の決定

# 大泉地域ビジョン策定委員会

委員長 伊藤哲哉

副委員長 齋藤とき子

佐藤恵子 佐藤仁 長南敏子 土田啓志

齋藤智 伊藤孝平 鈴木一枝 菅原尚人

佐藤田鶴子 田村久 阿部みえ 阿部一博

菅原淳一

事務局 岡本孝勇 山口弘美 伊藤美沙

